

自営業婦人の産後の健康と生活

研究第1部

千賀 悠子・藤井 仁
 宮原 忍(東京大学医学部母子保健学科)
 星山 佳治

はじめに

われわれは、第一報の「自営業婦人の妊娠時における健康管理に関する研究」において、自営業に従事する妊産婦の分娩前後の保健に対する認識・保健行動および労働状態の実態についての調査報告を行った。

今年度は、自営業従事婦人の産後一年間の生活と育児および健康について、実態把握の調査研究を行った。

I 対象と方法

昭和51～53年に東京愛育病院で分娩した1553例に郵送によるアンケート調査を行った。なお、1553例は昭和53年に行った「自営業婦人の妊娠時における健康管理に関する研究」の調査回答者839例と、昭和53年に分娩した714例である。有効回答は767例で、回収率は49.4%。

集計にはHITAC8800/8700を使用した。

II 調査内容

調査内容は、1)産後1年間の生活環境 2)母親の就労状態、3)母親の健康 4)子どもの発達と健康の4観点からなる19の質問項目を設定した。(付表1)

1)産後1年間の生活環境

家族一世帯構成、世帯人員、年齢、学歴

職業—夫、妻(母親)の就労形態

住宅—住宅形態、部屋数、子ども部屋の有無

経済状態—

育児—生後1年間の主な保育者、就労中の育児時間、離乳食の準備、乳幼児健診回数、夫の協力

2)母親の就労状態

就労開始時期(産後仕事を始めた時期)

1日の就労時間

作業姿勢

3)母親の健康

産後の異常

食事の注意

月経再開の時期

4)子どもの発達と健康

新生児期の異常

生後1年間の罹患状態

生後3カ月末までの栄養法

生後約1年間の発達—おすわり、つかまり立ち、歩行、発語の時期

III 調査結果

各調査内容は、有効回答767例の産後1年間の就労形態別に集計し検討を行った。なお、調査内容により他の属性別に検討を行った。

有効回答者(対象者母親)の産後1年間の就労状態を第1表に示す。「家族従業」とは、夫や親族の営む自営業に従事している形態である。「自由業」は、技術や才能を要する職業に従事しているものとし、就労形態はパートタイムとした。例えばピアノ教師・経営コンサルタントなど。その他は、職業の内容が不明であったもの。無職は対照群とし、第1表にみるように8群別に集計・検討を行った。

1)産後1年間の生活環境

①世帯構成および人員(第2表、第3表)

第1-1表 対象者の就労形態

就 労 形 態		例 数	
自 営 業 主	家族従業—フルタイム	36	70
	「パート	26	
	自 営 業 主	8	
そ の 他	自 由 業 の 他	31 3	34
勤 労 者	勤 め—フルタイム	32	39
	「パート	7	
小 計		143	
無 職		624	
計		767例	

第1-2表 夫の就労形態

夫の就労形態		自営業主	家族従業-F	勤め-F	その他	N・A	例数
母親 (妻)の就労形態	自営業主	27	6	3			36
	家族従業-F	19	4	3			26
	家族従業-P	6		1	1		8
その他	自由業	2		28	1		31
	その他			1	1	1	3
勤労者	勤め-F			28	2		32
	勤め-P			6		1	7
無職		73	12	523	12	4	624
計		129	22	593	17	6	767例

注) F-フルタイム P-パートタイム

第2表 世帯構成

	核家族	三世帯家族	その他	計
家族従業-F	20	16		36
		44.4		26
家族従業-P	13	13		26
		50.0		26
自営業主	6	2		26
	75.0			31
自由業	27	2	1	31
	87.1			3
その他	1	1	1	3
	33.3			32
勤め-F	22	10		32
	68.8			7
勤め-P	5	1	1	7
	71.4			624
無職	474	145	5	624
	76.0			767例
計	568	191	8	767例
	74.1	24.9	1.0	100.0%

Chi Square=152.94 Significance=0.000 Cramer's V=0.20

第3表 世帯人員

	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	計
家族従業-F		11	10	8	5	1	1		36
				22.2%	13.9	2.8	2.8		26
家族従業-P		6	6	8	3	2		1	26
				30.8	11.5	7.7		3.8	8
自営業主		3	2	1		2			8
自由業		18	8	3	2				31
		58.1	25.8						3
その他		1	1			1			3
勤め-F		12	9	6	4	1			32
		37.5	28.1						7
勤め-P	1		4	1		1			7
	14.3		57.1						624
無職		247	220	90	50	13	4		624
		39.6	35.3						767例
計	1	298	260	117	64	21	5	1	767例
		38.9	33.9	15.3					

Chi Square=195.48 Significance=0.000 Cramer's V=0.19

対象全体の世帯構成は、核家族世帯—74.1%、三世代家族世帯—24.9%。

核家族世帯は、「自由業群」—87.1%に多く、ついで「無職群」「自営業主群」の順である。

三世代家族世帯は、「家族従業—P群」—50.0%、「家族従業—F群」—44.4%で他群に比べ多い。

世帯人員が3~4人世帯は、「自由業群」—83.9%に多い。ついで「無職群」—74.8%、「勤め—P群」「勤め—F群」の順である。

世帯人員が5人以上の世帯は、「家族従業—P群」—53.8%、「家族従業—F群」—41.6%で他群に比べ多い。

② 母親の年齢 (第4表)

30歳以上の母親は、「勤め—P群」—71.4%、「勤め—F群」—62.5%の両群に多い。

30歳未満の母親は、「自由業群」—67.7%に多い。

夫の年齢分布も妻(母親)の年齢分布とはほぼ同傾向を示している。

第4表 母親の年齢

	~19歳	20~	25~	30~	35~	40~	計
家族従業—F		5 13.9%	16 44.4	13 36.1	2		36例
家族従業—P		3	9 34.6	8 30.8	6 23.1		26
自営業主	1		3	3	1		8
自由業		1 64.5	20 64.5	10 32.3			31
その他				2		1	3
勤め—F		1	11 34.4	11 34.4	7 21.9	2	32
勤め—P		1	1	3	2		7
無職		25 56.7	354 56.7	211 33.8	30	4	624
計	1	36 414	114 261	114 48	7 6.3		767

Chi Square=198.54 Significance=0.000 Cramer's V=0.23

③ 学 歴 (第5表)

母親の学歴が短大、専門学校卒業以上のもは、対象全体では69.5%、高卒までは29.3%。

就労対象間で比較すると、高卒までの学歴のものが「家族従業—F群」—55.6%、「家族従業—P群」—46.2%で、これら2群において多い傾向がある。

夫の学歴も妻のそれとはほぼ同傾向を示している。

④ 就労形態 (第1表—1, 第1表—2)

母親の就労形態については前述したとおりである。夫の就労形態は、「自営業主」—129例、「家族従業—F群」—22例、「勤め—F群」—593例、「その他」17例である。

自営業従事者(夫) 151例中、妻も同じ自営業に就労しているものは56例(37.1%)、妻が他に就労しているものは10例(6.6%)、妻が無職のもの85例(56.3%)である。

第5表 母親の学歴

	中学卒	高校卒	短大卒 専門学 校	大 以 上	N/A	計
家族従業—F		20 55.6%	11	4	1	36例
家族従業—P		12 46.2	9	4	1	26
自営業主		2	3	3		8
自由業	2	9 29.0	20 64.5			31
その他			1	2		3
勤め—F		8	8 25.0	16 50.0		32
勤め—P		2	1 14.3	4 57.1		7
無職	7	172 34.5	215 35.7	223 35.7	7	624
計	7 0.9	218 28.4	257 33.5	276 36.0	9 1.2	767 100.0

⑤ 住 宅 (第6, 7, 8表)

<住宅形態> 対象全体の持家率は56.3%。各群間に差異は認められなかった。

だが、夫の就労形態別に住宅形態をみると、夫が「家族従業」のもの持家率は81.8%、「自営業主」—62.0%、「勤め」—54.6%で、夫が自営業に従事しているものの持家率が高い傾向にある。

<部屋数> 対象全体では、「1部屋」—27%、「2部屋」—21.7%、「3部屋」—27.6%、「4部屋」—22.4%、「5部屋以上」は25.2%である。各群間に差異は認められなかった。だが、自営業者従事者グループでは「5部屋以上」のものが他群に比べ多い傾向を示した。「5部屋以上」は「自営業主群」—37.5%、「家族従業—P群」—34.6%、「家族従業—F群」—30.6%。

夫の就労形態別に検討すると、夫が「家族従業」

第6表 夫の職業と住宅形態

	持家 一戸建	持家 アパート	賃貸 一戸建	賃貸 アパート	給与住宅 一戸建	給与住宅 アパート	N.A.	計
勤め	190 32.0	134 22.6	30	125	13	69	32	593例
自営業主	53 41.1	27 20.9	11	27	2		9	129
家族従業	16 72.7	2 9.1	1	1			2	22
その他	5 29.4	2 11.8	1	5		2	2	17
計	264 34.7	165 21.7	43 5.7	158 20.8	15 2.0	71 9.3	45 5.9	761 100.0%

注) 夫の職業無回答6例

第7-1表 部屋数

	1室	2室	3室	4室	5室	6室	7室	8室	9室以上	N.A.	計
家族従業-F	1	8	9	7	5		2	2	2		36例
家族従業-P	2	6	3	6	2	1	1	2	3		26
自営業主		3		2	2				1		8
自由業		10	7	7	4	2			1		31
その他		1							2		3
勤め-F	2	8	12	6	1	1	1		1		32
勤め-P	1	3		2		1					7
無職	15	128	181	142	64	34	19	20	19	2	624
計	21	167	212	172	78	39	23	24	29	2	767

第7表-2 夫の職業と部屋数

	1~2室	3~4室	5~6室	7室以上	N.A.	計
勤め	14 25.0	307 51.8	94	42	2	593例
自営業主	29 22.5	66 51.2	16	18		129
家族従業	1	6	5	10		22
その他	7 41.2	4 23.5	2	4		17
計	185 24.3	383 50.3	117 15.4	74 9.7	2 0.7	761 100.0%

注) 夫の職業無回答6例

のものは他群に比べ5部屋以上、のものが多い。
 <子ども部屋> 子ども部屋があるものは対象全体で38.5%。「勤め-P群」では子ども部屋のあったものが71.4%と他群に比べ多い。

⑥ 経済状態(第9表)

第8表 子ども部屋

	あった	なかった	N.A.	計
家族従業-F	15	21		36例
家族従業-P	7	19		26
自営業主	4	4		8
自由業	13	17	1	31
その他	1	2		3
勤め-F	9	22	1	32
勤め-P	5	2		7
無職	241	381	2	624
計	295 38.5	468 61.0	4 0.5	767 100.0%

Chi-Square=116.08 Significance=0.000 Cramer's V=0.28

産後1年間の経済状態が「楽だった」ものは対象全体で21%。「普通だった」-72.9%。
 自営業従事者グループでは、他群に比べ経済状態が

第9表 産後の経済

	楽く	普通	何とか	N.A.	計
家族従業-F	16 44.4	17	2	1	36例
家族従業-P	8 30.8	16	1	1	26
自営業主	3 37.5	5 62.5			8
自由業	7 22.6	19	4	1	31
その他		3 100.0			3
勤め-F	6 18.8	21	4	1	32
勤め-P		5	1	1	7
無職	121 19.4	473 75.8	29	1	624
計	161 21.0	559 72.9	41 5.3	6 0.8	767 % 100.0

第10-1表 育児(昼間-生後1ヵ月まで)

	母親	母親+ 祖母	祖母	施設	その他	N.A.	計
家族従業-F	26 72.2	1 16.7	6 16.7		1 2.8	2	36例
家族従業-P	21 80.0	2 7.7	3 11.5				26
自営業主	5 62.5	2 25.0			1 12.5		8
自由業	27 87.1	2 6.5	1 3.2		1 3.2		31
その他	6 66.7	1 33.3					3
勤め-F	25 78.1	4 12.5	1 3.1			2	32
勤め-P	5 71.4			1		1	7
無職	503 80.6	55 8.8	52 8.3		13 2.1	1	624
計	614 80.1	67 8.7	63 8.2	1 0.1	16 2.1	6 0.8	767 % 100.0

Chi Square=157.49 Significance=0.000 Cramer's V=0.20

「楽だった」ものが多い傾向にあり、「家族従業-F群」44.6%、「自営業主群」37.5%、「家族従業-P群」30.8%である。

⑦ 育児

<生後1年間の主な保育者> (第10表-1~4)

生後1ヵ月末(常勤者については、産休明けまで)までは、昼夜とも母親(対象者)が主な保育者である(対象全体一昼間80.1%、夜間94.1%)。だが、「家族従業-F群」「家族従業-P群」では、祖母が昼間の主な保育者である割合が他群に比べて多い。「家族従業-F群」16.7%、「家族従業-P群」11.5%。

生後2ヵ月から6ヵ月末までの主な保育者は昼夜とも母親である(対象全体一昼間91.1%、夜間97.3%)。生後

第10-2表 育児(昼間-2ヵ月~6ヵ月)

	母親	母親+ 祖母	祖母	施設	その他	N.A.	計
家族従業-F	29 % 80.6	2 5.6	1	2		2	36例
家族従業-P	22 84.6	1 3.8	3 3.8		2 7.7		26
自営業主	8 100.0						8
自由業	30 96.8	1 3.2					31
その他	2 66.7	1 33.3					3
勤め-F	5	5	8	11	1	2	32
勤め-P	3 42.9	1 14.3		2		1	7
無職	600 96.2	20 3.2	1	1	1	1	624
計	699 91.1	31 4.0	11	16	4	6	767

Chi Square=468.72 Significance=0.000 Cramer's V=0.32

第10-3表 育児(昼間-7ヵ月~12ヵ月)

	母親	母親+ 祖母	祖母	施設	その他	N.A.	計
家族従業-F	31 86.1	1	1	1		2	36例
家族従業-P	22 84.6	1 3.8	2	1			26
自営業主	8 100.0						8
自由業	26 83.9	3 9.7		2			31
その他	3 100.0						3
勤め-F	2	3	7	16	2	2	32
勤め-P	3 42.9	1 14.3		2		1	7
無職	605 97.0	17 2.7			1	1	624
計	700 91.3	26 3.4	10 1.3	22 2.7	3 0.4	6 0.8	767 % 100.0

Chi Square=539.13 Significance=0.000 Cramer's V=0.34

1ヵ月間の頃と比較し産褥期間も経過し、母親が育児をしているものが多い。この時期になると、「勤め-F群」では産後休暇も明け、子どもを昼間施設に預けるものが34.4%となり、他群に比べて多いことが認められる。自営業従事者グループでは、昼間、祖母が保育にあっているものの率が減じ、母親が主な保育者であるものの率が前期に比べて多くなっている。しかし、夜間祖母が主な保育者である割合が「家族従業-F群」では11.1%と、他群のそれに比べて多い傾向を示している。

生後7ヵ月から12ヵ月末までの主な保育者は、昼夜とも母親である(対象全体一昼間91.3%、夜間97.8%)。

第10-4表 育児(夜間-2カ月~6カ月)

	母親 祖母	母親 祖母 その他	祖母 施設	N.A.	計
家族従業-F	30 83.8		4 11.1	2	36例
家族従業-P	25 96.2		1 3.8		26
自営業主	8 100.0				8
自由業	31 100.0				31
その他	2 66.7		1 33.3		3
勤め-F	29 90.6		1	2	32
勤め-P	6 85.7			1	7
無職	615 98.6	2	4	1	624
計	746 97.3	2 0.3	7 0.2	6	767

Chi Square=99.47 Significance=0.000 Cramer's V=0.18

「勤め-F群」における昼間の「施設」保育は50%と前期より増加している。「家族従業-F群」における夜間の祖母の保育は11.1%で前期と同じである。

＜就労中の育児時間＞(第11表)

対象勤労婦人全体で就労中に育児時間をとったものが75例52.4%、とらなかったものが35例24.5%。

就労中に育児時間をとったものは、「自営業主群」6例75%と多く、次いで「自由業」18例58.1%「家族従業-F群」20例55.6%、「勤め-F群」17例53.1%。

就労中に育児時間をとらなかったものは、「勤め-P群」3例42.9%で、他群に比べ育児時間をとらなかったものが多い。

「勤め-P群」では、日常生活とくに育児に支障がな

第11表 就労中の育児時間

	とった	とらなかつた	N.A.	計
家族従業-F	20 55.6	4 11.1	1	36例
家族従業-P	11 42.3	6 23.1	9	26
自営業主	6 75.0	1 12.5	1	8
自由業	18 58.1	9 29.0	4	31
その他	2		1	3
勤め-F	17 53.1	12 37.5	3	32
勤め-P	1	3 42.9	3	7
計	75 52.4	35 24.5	33	143 100.0

Chi Square=23.68 Significance=0.023 Cramer's V=0.34

いように就労しているものと推察されるので、就労中の育児時間、をとらなかったものがあると考えられる。

＜離乳食の準備＞(第12表)

対象全体で離乳食を「大体自分で作った」ものは46.8%、「適宜自分で作ったり市販品を利用した」もの50.7%、「大体市販品を利用した」もの1.2%。

「大体自分で作った」ものは、「勤め-P群」で71.4%と他群に比べ高い。次いで「家族従業-P群」65.5%「自営業主群」62.5%である。

市販品の利用、が比較的多かったのは「無職群」で54.5%（市販品が-1.1%、自分で&市販品-53.4）、次いで「自由業群」48.4%、「勤め-F群」46.9%である。

「勤め-F群」では、離乳食を「大体自分で作った」ものが37.5%と他群に比べ少なく、市販品の利用やその他の手段により離乳食を準備していたものが62.5%である。

他の属性別に「出生順位、および「家族形態」と離乳食の準備について検討したが、差異は認められなかった。

第12表 離乳食の準備

	自分で 作った	市販品	自分で & 市販品	その他	N.A.	計
家族従業-F	20 55.6	1 2.8	14 38.9		1	36例
家族従業-P	17 65.4		9 34.6			22
自営業主	5 62.5		3 37.5			8
自由業	16 51.6		15 48.4			31
その他	3 100.0					3
勤め-F	12 37.5	1 3.1	14 43.8	3 9.4	2 6.2	32
勤め-P	5 71.4		1		1	7
無職	231 45.0	7 1.1	333 53.4	1 0.2	2 0.3	624
計	359 46.8	9 1.2	389 50.7	4 0.5	6 0.8	767 100.0

Chi Square=157.49 Significance=0.000 Cramer's V=0.20

＜乳児健診の回数＞(第13表)

子どもが1歳になるまでに乳児健診を6回以上受けたものは、対象全体では66.5%。各群別にみると、「家族従業-P群」88.5%、「自由業群」71.0%、「無職群」67.5%、「自営業主群」62.5%、「家族従業-F群」61.1%である。受診回数が8回以上であったものの比率の順位は、前記の順位と同じであり、「家族従業-P群」の50%は8回以上受診している。

「勤め-P群」の7例中6例は5回以下の受診回数で

第13表 乳児健診回数

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回以上	N.A.	計
家族従業-F		1	1	3	5	4	5	1	12	4	36例
家族従業-P		1		1	1	5	5	5	8		26
自営業主		1			2		2		3		8
自由業		2	1	1	5	2	5	9	6		31
その他			1		1			1			3
勤め-F	1	1	2	3	7		6	4	6	2	32
勤め-P			3	2	1					1	7
無職	6	17	36	55	79	85	95	112	129	10	624
計	7	23	44	65	101	96	118	132	164	17	767
	0.9	3.0	5.7	8.5	13.2	12.5	15.4	17.2	21.4	2.2	100.0

第14表 就労開始時期

	産後1週間後～	2～4	5～6	7～8	9～10	その他	N.A.	計
家族従業-F		11	7	1	2	2	13	36例
家族従業-P	1	5	1	4	1	5	9	26
自営業主	1	2	1		1	2	1	8
自由業	2	3	10	1	5	7	3	31
その他		1				1	1	3
勤め-F	1	1	3	11	8	5	3	32
勤め-P						4	3	7
計	5	23	22	17	17	26	33	143
	3.5	16.1	15.4	11.9	11.9	18.2	23.1	100.0%

Chi Square=63.98 Significance=0.000 Cramer's V=0.34

(85.7%)、他群に比べ受診回数が少ない傾向を示した。また「勤め-F群」においても受診回数5回以下が43.8%、6回以上が50%と、他群に比べ受診回数が少ない傾向にある。

なお、調査対象機関の愛育病院では、出生後6年間定期的に乳幼児の保健指導を行っている。よって他施設分娩の児に比べ乳児健診回数が多い傾向にある。他の属性として「出生順位」と健診回数について検討した結果、7回以上の健診回数は、「第1子」で71.3%、「第2子」-36.8%、「第3子」-19.2%である。「第1子」と他群を比べると、「第1子」ほど健診回数が多い傾向が認められた。

＜夫の協力＞
育児をするにあたり夫の理解や協力が得られたかについては、対象全体で「充分に得られた」-40.3%、「まあまあ得られた」-49.8%、「足りなかった」-8.7%で

あった。各群間に差異は認められなかった。また、夫の就労形態別にも検討したが差異は認められなかった。

2) 母親の就労状態

① 就労開始時期（産後仕事を始めた時期）（第14表）
産後6週間以内に仕事を始めたものは、対象勤労婦人全体で50例35.0%である。各群別にみると、「家族従業-F群」-18例50%、「自営業主群」-4例50%、「自由業群」15例48.4%、「家族従業-P群」7例26.9%、「勤め-F群」4例12.5%である。

産後4週間以内に仕事を始めたものは、「自営業主群」-37.5%、「家族従業-F群」-30.6%、「家族従業-P群」-23%である。自営業従事者グループでは、産後の就労開始（産後6週間以内）が「勤め-F群」および「勤め-P群」に比べ早いものが多いことが認められた。

第15表 1日の就労時間

昭和27年10月調査

	4時間未満	4～6	7～8	9～10	10時間以上	その他	N/A	計
家族従業—F	2 36.1	13 36.1	4 11.1	4 11.1	1	1	11	36例
家族従業—P	12 46.2	5 19.2	2				7	26
自営業主		3 37.4	2 25.0		1	1	1	8
自由業	17 54.8	7 22.6	1			3	3	31
その他		2 66.7					1	3
勤め—F		6 23.1	23 71.9				3	32
勤め—P	2 28.6	1 14.3				1	3	7
計	33 23.1	37 25.9	32 22.4	4 2.8	2 1.4	6 4.2	29 20.3	143 100.0%

Chi-Square=110.01 Significance=0.000 Cramer's V=0.44

第16表 産後の異常

昭和27年10月調査

	子宮復古不全症	胎盤遺残	産褥熱	乳腺炎	尿路感染症	中毒症後遺症	その他	異常あり	異常なし	計
家族従業—F	1	3		2			1	7 19.4	29	36例
家族従業—P	2	1				2	1	6 23.1	20	22
自営業主	1	1					1	3 37.5	5	8
自由業	1	3					2	6 19.4	25	31
その他		1						1 33.3	2	3
勤め—F	1						3	4 12.5	23	31
勤め—P	1							1 14.3	6	7
無職	40	23	4	19	5	14	41	146 23.4	478	624
計	47	32	4	21	5	16	49	174 22.7	593 77.3	767 100.0%

労働基準法の適用を受ける「勤め—F群」の就労開始は、7～8週、11例34.4%、9～10週、8例25%、10週以降、5例15.6%である。6週間以内、に就労を開始したものが4例12.5%ある。

② 1日の就労時間(第15表)

1日の就労時間が7～8時間、のものは、「勤め—F群」において23例71.9%と他群に比べ多いことが認められた。4時間未満、のものは、「自由業群」17例54.8%、「家族従業—P群」12例46.2%である。これら2群は、就労形態上短時間労働のものが多く、

6時間以内、を就労別でみると、「自由業群」は24例77.4%で他群に比べ多い傾向を示す。「家族従業—P群」は17例65.4%である。

「家族従業—F群」では、就労時間が、4～6時間、のものが15例41.7%、7～8時間、4例11.1%、9

時間以上、5例13%である。「家族従業—P群」では、4時間未満、の就労のものが自営業従事者グループの中で多いことが認められた。

③ 作業姿勢

対象労働婦人全体の作業姿勢は、立ちたり座ったり、50例34%、座って、36例25%、立ち、25例18%。各群間に著明な差異は認められなかった。だが、「自由業群」において、座って、の姿勢のものが17例54%と、他群に比べ多い傾向を示した。

④ 母親の健康

① 産後の異常(第16表)

産後、異常があった、ものは、対象全体で174例22.7%である。各群に差異は認められなかった。異常は、子宮復古不全、47例6.1%、胎盤遺残、32例4.2%、乳腺炎、21例3%、妊娠中毒症後遺症、16

第17表 産褥2カ月～の児の栄養方法と月経再開の時期

	産褥2カ月末	3カ月～	5カ月～	7カ月～	8カ月～	11カ月～	13カ月	15カ月	17カ月	N. A.	計
母乳	61	72	115	59	51	32	7	1	3	11	412
	14.8	17.5									
混合	75	118	70	15	7	3	4	1		5	298
	25.2	39.6									
人工	27	17	4	1						3	52
	51.9	32.7									
計	163	207	189	75	58	35	11	2	3		743
	21.9	27.9	25.4	10.1	7.8	4.7	1.5	0.3	0.4		100%

Chi Square=143.05 Significance=0.000 Cramer's V=0.31

例2.1%、その他、49例6.4%、その他の異常、の内容は、月経不順・貧血・アレルギー性疾患・胃腸の疾患・痔などである。

なお、産褥期におこりやすい異常を参考までに回答欄の下に記載し、調査対象者に産後の異常の状態を記入させるようにした。

② 月経再開の時期（第17表）

月経再開の時期は母乳の分泌と関連があるので、児の栄養方法別（生後3カ月末までの栄養方法）に月経再開の時期を検討した。

「母乳群」における月経再開の時期は、産褥2カ月末の間、61例14.8%、3カ月～4カ月末の間、72例17.5%で、産褥4カ月末の間、に月経再開をみたものは32.3%である。

「人工乳群」では、産褥2カ月末の間、27例51.9%、3カ月～4カ月末の間、17例32.7%である。産褥4カ月末の間、に月経があったものは84.6%。

「混合群」では、産褥2カ月末の間、75例25.2%、3カ月～4カ月末の間、118例39.6%である。産褥4カ月末の間、に月経があったものは64.8%。

児の栄養方法が人工乳、混合、であった母親の月経再開時期は、母乳、のそれに比べ早いものが多いことが認められた。

産褥12カ月末、までには「母乳群」94.7%、「人工乳群」94.2%、「混合群」96.6%が月経再開をみている。就労形態別においては差異は認められなかった。

③ 食事の注意

産後の食事の注意については対象全体で「ふだんとかわらなかつた。369例48.1%」「気をつけた。312例40.7%」「気をつけようと思ったができなかった。78例10.2%」。各群間において差異は認められなかった。だが「気をつけようと思ったができなかった。」と回答したものが、「勤め-F群」15.6%、「家族従業-P群」15.4%あ

り、他群に比べできなかった。ものがやや多い傾向がある。

4) 子どもの発達と健康

① 児の性別と出生順位

児の性別は、男児387例50.5%女児380例49.5%。出生順位は、第1子—407例53.1%、第2子—304例39.6%、第3子—52例6.8%、第4子—2例、第5子—1例、第6子—1例。

児の性別および出生順位について各群間に差異は認められなかった。

② 新生児期の異常・病気（第18表）

新生児期に異常や病気があったと回答したものは対象

第18表 新生児期の異常・病気

	仮死	重症	けいれん	呼吸困難	その他	計
家族従業-F	1	2			2	5/36 13.9
家族従業-P	1		1			2/26 7.7
自営業主					1	1/8 12.5
自由業	3	1				4/31 12.9
その他						0/3
勤め-F					1	1/32 3.1
勤め-P						0/7
無職	5	23		2	86	66/624 10.6
計	10	26	1	2	40	79/767 10.3

全体で79例10.3%。その内容は「黄疸、26例3.4%、仮死、10例1.3%、呼吸困難、2例、けいれん、1例」その他、40例であった。

「自由業群」においてこの時期に異常があったもの4例中3例が「仮死」と回答している。「自由業群」における「仮死」の率が他群に比べ高い傾向がある。

② 生後2ヵ月から12ヵ月までの罹患状態 (第19表)
この期間内に対象児全体の482例62.8%が罹患している。各群間に罹患率の差異は認められなかった。

「風邪」289例60%、「呼吸器系疾患—肺炎・気管支炎」25例5.2%、「消化器系疾患—下痢・嘔吐など」61例12.7%、「皮膚疾患—湿疹・膿痂疹など」42例8.7%、「伝染性疾患—突発疹など」246例51%、「耳鼻・眼科疾患」35例7.3%、「けが」3例0.6%、「LCC・ヘルニアなど」13例2.7%、「その他」13例2.7%。

〈罹患病名または症状別検討〉 罹患に関しては、①対象者(母親)の就労形態別、②世帯構成別、③出生順位別の属性について検討した。

① 対象者(母親)の就労形態別
前掲の8群の就労形態別では、罹患病名等に罹患率の差異は認められなかった。

そこで、就労対象者間における児の罹患について検討
第19表 生後一年間の罹患病名または症状別 (消化器系疾患)

	罹患しなかった	合計
自営業群	1	69
勤労者群	6	33

Chi Square=5.96 Significance=0.000 Cramer's V=0.23

	罹患しなかった	合計
核家族	52	516
三世帯家族	9	182

(LCC・ヘルニアなど)

	罹患しなかった	合計
核家族	6	562
三世帯家族	7	184

Chi Square=4.33 Significance=0.000 Cramer's V=0.08

(膿痂疹など皮膚疾患)

	罹患しなかった	合計
核家族	26	542
三世帯家族	15	176

(突発疹など伝染性疾患)

	罹患しなかった	合計
第一子	147	260
その他	97	263

Chi Square=6.99 Significance=0.000 Cramer's V=0.09

した。その結果「勤労者群」において「消化器系疾患」をおこした児が多い傾向がある。また同群では「呼吸器系疾患」をおこした児もやや多い傾向がある。

④ 世帯構成別

世帯構成については、「核家族」と「三世帯家族」の世帯に別けて罹患状態を検討した。

「消化器系疾患」をおこしたものが「核家族」にやや多い傾向を示したが有意性はない。

「LCC・ヘルニアなどの異常」は「三世帯家族」にやや多い傾向を示した。「皮膚疾患」も「三世帯家族」にやや多くみられた有意性はない。

⑤ 出生順位別

出生順位別に罹患状態を検討したが差異は認められなかった。

そこで出生順位を「第1子」と「第2子以降」の2群に別けて検討した。その結果、年長の子どもがいる「第2子以降の群」では「伝染性疾患」に罹患した児が「第1子群」に比べ多い傾向を示した。「呼吸器系疾患」も「第2子以降の群」においてやや多い傾向を示したが有意性は認められなかった。

⑥ 生後3ヵ月間の栄養方法 (第20-1表)
〈栄養方法〉 (第20-1表)

生後3ヵ月末までの栄養方法は、対象全体では「母乳」412例53.7%、「混合」298例38.9%、「人工」52例6.8%である。

「母乳」は、「家族従業—P群」で18例69.2%と多く、次いで「無職群」55.8%、「自由業群」54.8%である。

「混合」は、「勤め—F群」で23例71.9%、次いで「勤め—P群」57.1%である。栄養方法を「母乳」、「混合」、「人工」の3群に別けて各群間を検討したが顕著な有

第20-1表 生後3ヵ月間の栄養方法

	母乳	人工	混合	N.A.	合計
家族従業-F	17 47.2	4 11.1	14 38.9	1	36例
家族従業-P	18 69.2	3 11.5	5 19.2		26
自営業主	3	1	4		8
自由業	17 54.8		14 45.2		31
その他	1	1	1		3
勤め—F	7 21.9	1 3.1	23 71.9	1	32
勤め—P	1 14.3	1 14.3	4 57.1	1	7
無職	348 55.8	41 6.6	233 37.3	2	624
計	412 53.7	52 6.8	298 38.9	5 0.7	767 100.0

第20-2表 人工乳を与えた時期

	生後1週 以内	～2週	～3	～4	～5	～6	～7	～8	9週以降	N. A.	計
家族従業-F	1	6	2	4		1		2	2		18例
家族従業-P	2	4	1		1						8
自営業主		1	1	1	1				1		5
自由業	1	7	2	2				1	1		14
その他		1							1		2
勤め-F	3	4	4	2	2	1	1	4	3		24
勤め-P		1		2					1	1	5
無職	33	84	42	50	20	13	4	14	12	2	274
計	40 11.4	108 30.9	52 14.9	61 17.4	24	15	5	21	21	3	350

第20-3表 人工乳を与えた理由

	母乳が でない	仕事の ため	本人の 健康	その他	N. A.	計
家族従業-F	13 72.2	3		2		18例
家族従業-P	5 62.5	1		2		8
自営業主	5 100.0					5
自由業	11 78.6	1	2			14
その他	1 50.0	1				2
勤め-F	9 37.5	11 45.8		4 16.7		24
勤め-P	3 60.0	1		1		5
無職	234 85.7	1	12	26	1	274
計	281 80.3	19 5.4	14 4.0	35 10.0	1 0.3	350 100.0

Chi Square=118.77 Significance=0.000 Cramer's V=0.34

第20-4表 人工乳を与える時に相談した人

	自分で	夫	実 養 母 母	姉 妹	愛育病院	保健所	電話相談	その他	N. A.	計
家族従業-F	10		2		5			1		18例
家族従業-P	2				5			1		8
自営業主	2				3					5
自由業	6	1	2		5					14
その他	1		1							2
勤め-F	11		1		10	1		1		24
勤め-P	2		1		1			1		5
無職	106	9	38	8	98	1	3	8	3	274
計	140 40.0	10	45	8	127 36.3	2	3	12	3	350

意差は認められなかった。だが、「家族従業-P群」と「勤め-F群」とを比較した結果、「家族従業-P群」では「母乳、栄養のものが多く、「勤め-F群」では「混合栄養、のものが多い傾向があることが認められた。(Chi Square=14.07 Significance=0.000 Cramer's V=0.50)

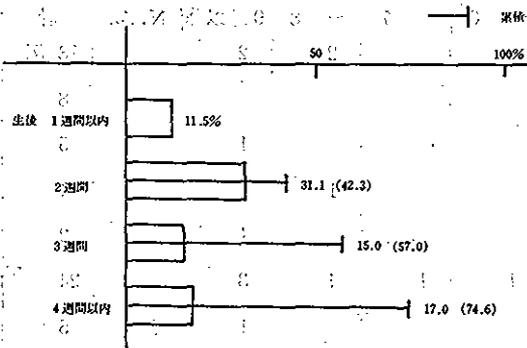
<人工乳を与えた時期> (第20-2表, 第1図)

人工乳を与えた時期 (人工乳を与えた350例について) は、対象全体では「生後1週間以内、40例11.4%、
「2週間台、108例30.9%、
「3週間台、52例14.9%、
「4週間台、61例17.4%、である。生後2週間台に人工乳を与えたものが多い。

したがって、生後4週間以内に人工乳を与えたものは261例。人工乳を与えたもののうち74.6%は生後4週間以内に人工乳を与えている。

生後4週間において母乳栄養であったものは498名

第1図 人工乳を与えた時期



94.9%である。生後8週間に おいての 母乳栄養は、443例56.5%生後3カ月末でのそれは412例53.7%である。

人工乳を与えた時期について各群間に著明な差異は認められなかった。

<人工乳を与えた理由> (第20-3表)

人工乳を与えたものの、その理由は「母乳がでないため、281例80.3%、「仕事のため、19例5.4%、「本人(母親)の健康のため、14例4.0%である。

「勤め-F群」では人工乳を与えた理由として「仕事のため、としたものが11例45.8%で、他群に比べこの理由によるものが多い傾向が認められた。

<人工乳を与える時に相談した人> (第20-4表)

対象全体では、「自分で決めた、140例40%、「愛育病院(出産施設)に相談した、127例36.3%、「実母または養母に相談した、45例13.0%である。各群間に差異は認められなかった。

母乳栄養の確立率は前記の通りで徐々に低下し、生後3カ月末では53.7%。人工乳を与えた時期は生後2週間台に与えるものが多い30.9%(108/350)、この時期は退院したばかりの週である。人工乳を与えた時の判断は「母親自身で決めた、40.0%、「愛育病院に相談した、36.6%で、やや「母親自身で決めた、ものが多い。そして人工乳を与えた時の理由の多くは「母乳がでない、こと80.3%であった。

「家族従業-P群」では、生後3カ月末までの栄養法が「母乳、であったものが18例69.2%と他群に比べ多い傾向を示し、「勤め-F群」と比較すると「母乳、が多いことが認められた。だが、人工乳を与えた8例中7例は生後3週間以内に与えており、他群の同期間のそれに比べ多い傾向を示している。

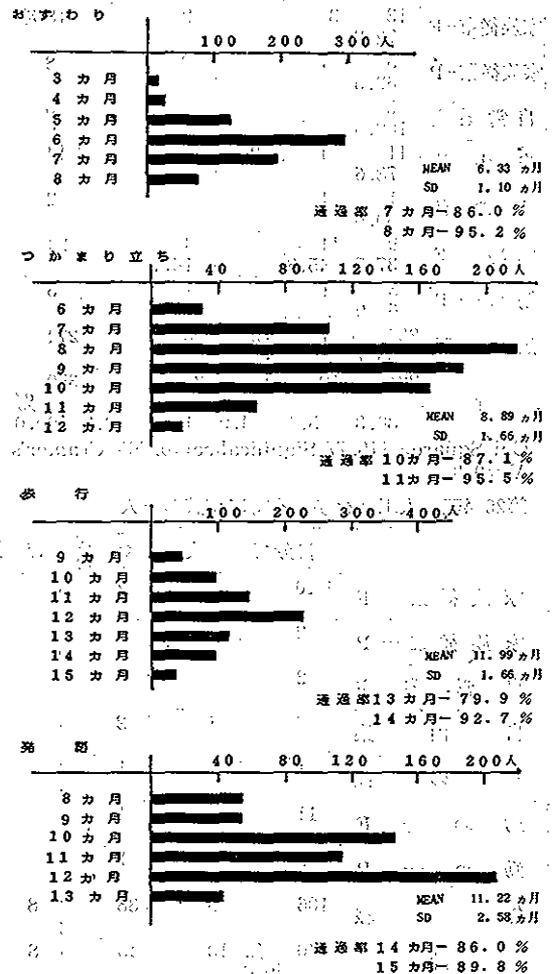
「勤め-F群」では、生後3カ月末までに人工乳を与えたもの24例75%で他群に比べ多い傾向を示している。また「家族従業-P群」と比較すると「混合、が多いこ

とが認められた。当群では、「人工乳を与えた理由も「仕事のため、と就労上の理由によるものが多い。人工乳を与えた時期は、「4週間以内、13例54.2%で他群に比べ少ない傾向を示している。また、産後休暇が終る6週末以内でも16例66.7%で他群に比べ少ない傾向を示している。

次に属性を「出生順位、と「家族形態、にとり、栄養方法に差があるか検討した。

「出生順位、については、「第1子群」と「第2子以降の群」の2群に別けた。「母乳、は「第1子群」で235例57.7%、「第2子以降の群」で177例49.2%。「第2子以降の群」では「母乳、のものが対照群のそれに比べやや少ない傾向にある。人工乳を与えた理由については、2群間に差異は認められず「母乳が出ない、もの多かった(第1子群-78.2%、対象群-82.2%)。

第2図 生後1年間の発達



「家族形態別、について栄養方法の差異は認められなかった。

⑥ 生後約1年間の発達(第2図)

生後約1年間の発達を「就労形態別、」出生順位、家族形態、部屋数、子ども部屋の有無、の属性別に検討した。

<おすわり>

対象全体のおすわりの生後9カ月の通過率は57.4%、7カ月—86.0%、8カ月—95.2%。属性別に検討したが差異は認められなかった。

<つかまり立ち>(第21表)

対象全体の生後8カ月の通過率は42.0%、9カ月—65.2%、10カ月—87.1%、11カ月—95.3%。

「自営業主群」および「勤め—P群」のつかまり立ちの生後8カ月の通過率は、各々75%、71.4%で他群の同時期の通過率に比べ高い傾向が認められた。

「家族従業—P群」においては、9カ月までの通過率は他群と差異はないが、10カ月の通過率が73.1%、11カ月—88.5%、12カ月—92.3%と他群に比べやや通過率が低い傾向にある。

その他の属性におい差異は認められなかった。

<歩行>

対象全体の歩行の通過率は、生後12カ月—65.1%、13カ月79.9%、14カ月—92.7%、15カ月—96.9%である。その他の属性において差異は認められなかった。

<発語>

対象全体の発語の通過率は、生後11カ月—53.3%、生後12カ月—78.4%、生後16カ月—91.5%である。その他の属性において差異は認められなかった。

第21表 つかまり立ち—通過率

	6カ月	7	8	9	10	11
家族従業—F	2 5.6	5 13.9	16 38.5	23 63.9	31 86.1	34例 94.4%
家族従業—P	2 7.7	5 19.2	10 38.5	14 5.8	19 73.1	23 88.5
自営業主	2 25.0	3 37.5	6 75.0	8 100.0		
自由業		8 25.8	14 45.2	20 64.5	28 90.0	30 96.8
その他	1 33.3	2 66.7				
勤め—F	2 6.3	7 21.9	15 46.9	22 68.8	29 90.6	31 96.9
勤め—P	1 14.3	2 28.6	5 71.4		7 100.0	
無職	24 3.8	108 17.3	255 40.9	403 65.4	544 87.4	596 95.5
計	33 4.3	139 18.1	322 42.0	500 65.2	668 87.1	731 95.3

Chi Square=139.92 Significance=0.0005 Cramer's V=0.16

IV ま と め

就労形態群別に「産後の生活と健康について」の特徴など概括する。

<家族従業フルタイム群、パートタイム群>

・両群に共通している特徴

①三世代家族世帯が、パート群50%、フルタイム群44.4%。世帯員5人以上が、パート群53.8%、フルタイム群41.6%と、他群に比べ世帯のサイズが大きい傾向を示している。部屋数は、5部屋以上がパート群34.6%、フルタイム群30.6%と他群に比べ部屋数の多い傾向がある。しかし、子ども部屋のあったものはフルタイム群41.7%、パート群26.9%で、子ども部屋があった割合は他群に比べ多くはない。これは部屋数が多くとも世帯員数が多いので子ども部屋がとりにくいものと推察する。

②経済状態は楽だったものが他群に比べ多い傾向がある(フルタイム群44.4%、パート群30.8%)。③夫婦の学歴が高卒のものが他群に比べ多い傾向がある(母親の学歴—フルタイム群55.6%、パート群46.2%)。④生後3カ月間の栄養方法が母乳栄養であったものが、勤め群に比べ多い(フルタイム群47.2%、パート群69.2%)。

・家族従業フルタイム群

①生後2カ月—12カ月間の夜間の育児を祖母が行っているものが11.1%あり他群に比べ高率である。②離乳食の準備は、自分で作ったものが55.6%と比較的多い。③就労開始時期が産後2—4週間以内であったもの30.6%と、比較的産後早い時期から仕事を始めたものの割合が自営業主に次いで高い。④一日の就労時間が9時間以上のものが13.9%あり、他群に比べ就労時間の長いものの割合が高い。

家族従業フルタイム群では、母親の就労時間が勤め—フルタイム群と同様に比較的長い、母乳栄養率・離乳食の手づくりなどの割合が高い。

このことは、母親の努力もさることながら就労場所と住宅が近接しているものが多いこと、また三世代家族・世帯員数が多いことにより手助けが得られること、そして自営業という仕事から時間を比較的自由に調節できることなどの理由によるものと考えられる。しかし、夜間の保育に祖母があたっているもの、就労時間が9時間を越えるものもあり、他群に比べ就労状態がきびしい母親がいることはいなめない。

・家族従業パート群

①母乳栄養69.2%と他群に比して高率である。②離乳食の手づくりも比較的多い(65.4%)。③乳児健診回数7回以上のもの69.2%と他群と比べ高率である。

パート群は、家族従業フルタイム群に比べ就労時間が短く、またフルタイム同様に家族の手助けも得られることもあり、育児時間がとりやすいと考えられる。家族従業フルタイム群に比べゆとりをもって育児にあたることができるかと推察される。

<自営業主群>

①世帯のサイズは小さい(核家族75.0%)。②夫婦の学歴は高い傾向を示している(母親-短大卒以上75%)。③産後1年間の育児は母親が行っており、就労中の育児時間をとったもの75%である。

自営業主は、時間の配分などを本人の意志で決めることができるので、自営業に従事している他の母親(調査対象)に比べ仕事と育児のバランスを上手にコントロールしていることがうかがえる。

<自由業群>

①核家族87.1%・家族数3人58.1%と対象群間の中で最も世帯のサイズが小さい。②母親の年齢が30歳以下のもの67.1%と、他群に比べ年齢が若い層が多い傾向を示している。③夫婦の学歴が短大卒以上のものが多く(短大卒以上、夫-90.3%、妻-93.5%)、他群に比べ高学歴のものが多い傾向を示している。対象者(妻)は、専門的知識や技術をいかした職業に従事しているため、必然的に高学歴のものが多いのであろう。④就労開始時期が6週以内であったものは48.5%で、自営業従事者グループと同様に勤労者グループに比べ比較的早い時期から就労している。⑤児の栄養法が母乳であったもの54.8%、混合45.2%と比較的母乳栄養率は高い。しかし、混合栄養のものが人工乳を与えた時期をみると、生後4週間以内のもの7例71.4%と、家族従業パート群に次いで比較的早い時期から与えたものが多い。⑥離乳食を自分で作ったもの51.6%、市販品との併用48.4%で、勤め-フルタイム群に次いで、自分で作ったものの割合が少ない。

自由業群の就労時間は他のパート群と同様に比較的短時間のものが多い。よって育児などの生活時間にゆとりがあると考えられるが、核家族世帯が多く家族の協力にも限界があること、また夫婦が高学歴・若年であることによるのか育児などにみられる生活パターンが他群とは異なる。

<勤めフルタイム、パートタイム群>

両群に共通している特徴

①核家族世帯(F群68.8%、P群71.4%)・家族数4人(F群65.6%、P群71.4%)と、世帯のサイズが比較的小さい。②母親の年齢が30歳以上のもの(F群62.5%、P群71.4%)が、他群に比べ多い。③夫婦の学歴が短大以上のものが多く高学歴のものが多い(短大卒以上、妻

F群75%、P群71.4%)④児の栄養方法は、混合栄養と人工乳を合わせると、F群77.4%、P群83.4%であり、他群に比べ人工乳を与えたものの割合が多い。

・勤め-フルタイム群

①就労開始時期が7週以降のもの75%、就労時間は7~8時間71.9%であり、労働基準法上からも当然の結果である。しかし、産後6週間以内に就労したものが15.6%あった。(参考:労働省「女子保護実施状況調査昭和53年」によると、1人平均産後休業日数は48.3日=6.9週である)②児の栄養方法は、混合71.9%・人工乳3.1%で人工乳を与えた割合は他群に比べ多い。人工乳を与えた時期別についてみると、4週間以内54.2%で、人工乳を与えた同時期の他群に比べその割合は最も低い。③離乳食は、自分で作ったもの37.5%・市販品との併用46.8%である。自分で作ったものの割合は他群に比べ少ない。④昼間の育児は、生後1ヵ月までは母親が主である(78.1%)。生後2ヵ月~6ヵ月間は、施設等37.5%、祖母25%、母親15.6%、母親と祖母15.6%。生後7ヵ月~12ヵ月間は、施設等56.3%、祖母21.9%、母親6.3%、母親と祖母9.4%。他群に比べ施設保育のものが多い。また、祖母のいる三世代家族10例31.3%では、生後2ヵ月以降の育児をほとんど祖母が担っているという過言ではない。また、母親が休業あるいは短時間就労によって生後1年間の育児を行っていることも推察できる。⑤就労中の育児時間の取得率は53.1%である。よって、育児時間をとらなかったものとN.Aの合計は15例46.9%である。このうち、1年間休業したもの3例・短時間就労6例の合計9例を除く6例が育児時間を取得できなかったことになる。育児休業および短時間就労のものを、育児時間が実質的に取得できたとし育児時間の取得率に加算してよいものが諸論も多く疑問である。一応、この群の32例中26例81.3%は、育児時間が取得できるかあるいは休業・短時間就労が可能であった故にフルタイムの仕事継続することができたともいえよう。⑥児の生後1年間の罹患状態は、消化器系および呼吸器系の罹患率が他群に比べ高い傾向を示した。消化器疾患率を家族従業(フルタイム+パートタイム)群に比べ勤めフルタイム群では有意に高い。

勤め-パートタイム群

①離乳食を自分で作ったもの71.4%と対象群間でも高率である。例数が少なく顕著な特徴はみられない。

以上、就労形態別に産後1年間の生活と健康について調査・検討を行った。

自営業に従事する婦人(母親)と勤労婦人を比較する

と、①産後の就労開始が6週以内のものが前者では41.4%で有意に多い。②前者は三世代家族が多く(手助けがえられること、また職住近接・就労中の時間の配分が自分のできるなどの理由により、母乳栄養率が高く、離乳食を手作りしたものが多い。そして母乳栄養率は前者の方が有意に高い。③児の生後1年間の消化器系および呼吸器系罹患率は、後者の勤労群に有意に多い。これは母親の就労形態上、児の異常を早期に発見するのをおくれたりすることにより、家庭婦人の児が罹病した場合に比べ治療経過があまりよくないという実態が、罹患件数に表われたものと推察する。また、勤め群の児は他群に比べ集団保育をしている率が高いので、カゼ等の呼吸系の罹患率も少し高い傾向を示していると考えられる。④産後の異常については群間に著明な差異は認められなかった。このことは、産褥検診および保健指導など十分に行われていること、また対象全体の生活環境がある一定水準を保っていることによると考えられる。今回は、睡眠・疲労感などについては調査しなかったが、自営業婦人のみならず勤労婦人を含め就労婦人の産後の睡眠不足・疲労感があったものは少なからず多かったであろうと、今調査をも通じて推測できる。

自営業従事者グループ間でも、その就労形態により生活実態は微妙に異なるようである。家族従業—パートタイム群および自営業主群は、生活時間にゆとりがあると推察できる。家族従業—フルタイム群では、長時間就労するものもあり(9時間以上=5例13.9%)、三世代家族などの理由により手助けが得られるとしても、前者2

群に比べ、生活が多忙であることがうかがえる。次に参考資料として二つの調査報告を紹介する。①総務府広報室「婦人に関する意識調査」(昭和54年)によると女性の自営者及び家族従業者の1週間の平均労働時間は、40時間未満=32%、50時間未満=26%、60時間未満=13%、60時間以上=20%である。N=1585例、ちなみに60時間を6.5日で割り1日の労働時間を算出すると9.2時間以上となる。

②全国商工会連合会「小規模事業婦人経営者の経営志向および地域活動への参画意識に関する調査」(昭和54年)によると、自営業婦人がおろそかになりがちになる事柄の第1位は家事で32.4%、第2位は睡眠・休養23.2%で健康・管理は16.8%。

我々の調査対象病院が、一施設だけでそれも比較的生活環境が安定している層が利用しているといわれている東京・愛育病院であること、また回答数のうち自営業に従事している婦人が70例と少数であるが、都市圏内における自営業従事婦人の産後の生活実態の一端を知る手がかりが得られた。

自営業に従事する婦人は妊娠中および産後の生活において、どのような援助を希望しているのかコードを具体的に把握することが今後の課題である。

なおこの研究は、厚生省心身障害研究の一環として行われた。

項目	家族従業—パートタイム	自営業主群	家族従業—フルタイム
産後6週間以内の就労開始	41.4%
母乳栄養率
産後1年間の消化器系罹患率
産後1年間の呼吸器系罹患率
産後の異常
睡眠不足
疲労感

〔付表1〕

産後の育児と健康についてのアンケート

ご記入にあたっての注意：●昭和11年に生まれたお子さまとあなたのご子について、お子さまの生後1年間のことについてお答えください。
●該当する番号を○印でかこむか、カッコ内の空白にお答えをご記入ください。

Q1. あなたの世帯（一緒に住んでいらっしゃる方）について、下記の表にならってご記入ください。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)勤務の状態	(7)仕事の内容	
続柄注：あなたご自身	出生年月日	男女の別 ①男 ②女	住居状況 ①1人暮らし ②2人暮らし ③3人暮らし ④4人以上暮らし	職業 ①専業主婦 ②パート ③無職 ④学生 ⑤その他	勤務の有無 ①有 ②無	1 勤め 2 勤めパートタイム 3 自営業主 4 自営業 5 自営業専業主婦 6 内職 7 その他	お住居の内容も記入ください
夫	23年1月	①男2女	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. ③ 4.	①有2無	① 2. 3. 4. 5. 6. 7.	技術関係の仕事
本人(あなた)	25年2月	①男0女	/	1. ② 3. 4.	①有2無	1. 2. 3. 4. ⑤ 6. 7.	クリーニング店パート
長男	51年3月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	①有②無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	/
義父	10年4月	①男2女	/	1. ② 3. 4.	①有2無	1. 2. ③ 4. 5. 6. 7.	クリーニング店主
義母	13年5月	①男0女	/	1. ② 3. 4.	①有2無	1. 2. 3. ④ 5. 6. 7.	クリーニング店フルタイム
男1	年 月	①男2女	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男2	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男3	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男4	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男5	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男6	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男7	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男8	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	
男9	年 月	①男2女	/	1. 2. 3. 4.	1.有2.無	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	

Q2. お住いにお部屋は全部でいくつありましたか。(玄関、浴室、台所、店、他人に貸しているところは除く。)
1. 1室 2. 2室 3. 3室 4. 4室 5. 5室 6. 6室 7. 7室 8. 8室 9. 9室以上

Q3. お子さん専用のお部屋はありましたか。
1. あった 2. なかった

Q4. おさんは、生まれた時や生まれて1カ月位の間、何か異常・病気がありましたか。
1. あった 2. なかった

SQ4-1 1. 仮死 2. 重い黄疸 3. けいれん 4. 呼吸困難
5. その他の異常(内容)

Q5. おさんは生後2カ月～12カ月の間、何か病気をしましたか。
1. 病気をした 2. しなかった

SQ5-1 1. 病名..... () () () () () () () () ()

この欄には記入しないでください。1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.

Q6. おさんの発達についてうかがいますので、空欄にお書きください。
○おすわりができたのは.....生後()カ月頃
○つかまり立ちができたのは.....生後()カ月頃
○一人で2～3歩あるくようになったのは.....生後()カ月頃
○はっきりと意味のある言葉を一言でも言ったのは.....生後()カ月頃
(例「ブーブー」「マンマ」「パパ」)

千賀他：自営業婦人の産後の健康と生活

Q7. お子さんが1歳になるまで乳児健診を何回受けましたか。

1. 受けた 2. 1回も受けなかった

SQ-7-1	1. 1回	2. 2回	3. 3回	4. 4回	5. 5回	6. 6回	7. 7回	8. 8回	9. 9回以上
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------

SQ-7-2	上記の健診で何か注意を受けましたか 1. 注意を受けた(内容) 2. 受けなかった
--------	---

Q8. お子さんが生まれてから生後3カ月までの栄養は何でしたか。

1. 母乳栄養のみ 2. 人工栄養 3. 混合栄養

上記で、人工栄養・混合栄養と答えた方におうかがいたします。

SQ-8-1	人工栄養を与えるのは生後何週頃でしたか。 1. 生後1週間以内 2. 2週 3. 3週 4. 4週(1カ月) 5. 5週 6. 6週 7. 7週 8. 8週(2カ月) 9. 9週以上
--------	---

SQ-8-2	人工栄養を与えた理由は(主なものを1つ選んでください)。 1. 母乳がでなかったため 2. 仕事があったため 3. 人工栄養の方がよいと思った 4. 本人(あなた)の健康上の理由で 5. 美容上 6. その他
--------	---

SQ-8-3	人工栄養を与える時に誰方かに相談しましたか(主なものを1つ選んでください)。 1. 相談せずに自分できめた 2. 夫に相談した 3. 義母または実母に相談した 4. 姉妹に相談した 5. 愛育病院に相談した 6. 保健所に相談した 7. 「電話相談」を利用した 8. その他()
--------	---

Q9. 離乳食についておうかがいします。

1. 大体自分で作った 2. 大体市販品を利用した 3. 適宜自分で作ったり市販品を利用した 4. その他()

Q10. お子さんの保育に主にあたっていらした方は誰方でしたか

	昼 間 (1)				夜 間 (2)		
～生後1カ月(産休明けまで)	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. 保育所	4. その他()	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. その他()
2カ月～6カ月	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. 保育所	4. その他()	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. その他()
7カ月～12カ月	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. 保育所	4. その他()	1. 本人(あなた)	2. 義母	3. その他()

Q11. あなたが育児をするうえで、ご主人の理解や協力が得られましたか。

1. 充分に得られた 2. まあまあ得られた 3. たりなかった

Q12. あなたは、お産後初めての月経(再潮)があったのはいつ頃でしたか。

1. 1カ月 2. 2カ月 3. 3カ月 4. 4カ月 5. 5カ月 6. 6カ月 7. その他()

Q13. あなたは、お産後何か異常がありましたか。

1. 異常があった 2. なかった

SQ-13-1	どんな異常でしたか(内容)
---------	---------------

この欄には記入しないでください	1. 子宮復古不全 2. 胎盤遺残 3. 産褥熱 4. 乳汁分泌不全症 5. 乳腺炎 6. 尿路感染症 7. 妊娠中毒症後遺症 8. その他
-----------------	--

Q14. あなたは、お産後あなた自身の食事に気がつきましたか

1. 気をつけた 2. 気をつけようと思ったができなかった 3. ふだんとかわらなかった

Q15. あなたのご家庭では、お産後の経済状態はいかがでしたか。

1. 楽だった 2. ふつう 3. 苦しいけれども何とかやれた 4. その他()

※ お産後、家事以外のお仕事をしていた方は、以下の問いにお答えください。

Q16. あなたが、お産後お仕事を始めたのはいつ頃ですか。

1. 産後1週間 2. 2～4週 3. 5～6週 4. 7～8週 5. 9～10週 6. その他()

Q17. あなたの1日の仕事時間は何時間ぐらいでしたか。

1. 4時間未満 2. 4～6時間 3. 7～8時間 4. 9～10時間 5. 10時間以上

Q18. あなたのお仕事はどのようなものでしたか。

1. ほとんど立ってする 2. ほとんど座ってする 3. 立ったり座ったり 4. その他()

Q19. あなたは、仕事中に育児のための時間をとりましたか。

1. はい 2. いいえ(理由)

ご協力ありがとうございました。

- 29 Q-7
- 30 SQ-7-1
- 31 SQ-7-2
- 32 Q-8
- 33 SQ-8-1
- 34 SQ-8-2
- 35 SQ-8-3
- 36 Q-9
- 37 Q-10-1
- 38
- 39
- 40 Q-10-2
- 41
- 42
- 43 Q-11
- 44 Q-12
- 45 Q-13
- 46 SQ-13-1
- 47 Q-14
- 48 Q-15
- 49 Q-16
- 50 Q-17
- 51 Q-18
- 52 Q-19